

平成31年度3年生 全国学力・学習状況調査について

成果

今年度は国語、数学、英語の3教科について調査があり、以前のようなA・B問題の区別はなくなった。また、英語については新たに「話すこと」の調査があった。今年度の3年生も全ての学力調査で、ほぼ全国平均と同じかやや上回っている状況であることがわかった。また、本校の大きな特長の一つとして、無回答率（各問題について空欄のままにしている生徒の割合）の低さがあげられる。学校全体が落ち着いていることや、教員が授業力を上げるためにさまざまな取組をしていること、授業中課題に真剣に取り組み、「自分ならできるはずだ」という自己肯定的な考えの生徒が多いこと。さらに、全校で取り組んでいる朝読書も、読解力の向上に功を奏していると考えられる。

今年度で6年目となる「岡山型学習指導のスタンダード」の「授業5」に示されている「めあて」「自分で考え・表現する」「目標の達成度の確認」「まとめ」「自分で振り返る」等の時間を確保する取組みも、全ての教科で定着している。特に、「生徒が自分で考え・表現する時間」を確保した授業づくりについては、グループでの話し合いや、ホワイトボードを活用した発表など、各教科で工夫しながら進めている。また、互いに認め合う学級や学年経営、学校行事への取組の成果や、部活動に熱心に取り組んでいる様子も、調査結果から読み取れる。

課題と対策

テストの正答率や質問紙の回答について個々に見ていくと、解決すべき課題がまだまだある。国語では、「語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択するなど、文章に適した表現や活用の仕方の問題」に課題が見られる。数学では、「証明で用いられている三角形の合同条件を書くなど、筋道を立てて考え、説明する問題」に課題がある。英語では、「月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択するなど、読み慣れない話題の英文に対応する力」が不足している。

これらの問題を解く機会を増やすとともに、いま求められている、コミュニケーション能力等の向上を目指した授業にも取り組んでいかなければならない。さらに、授業以外の取組として、漢字や計算問題等の「学習クラスマッチ」を今年度も小学校高学年も交えて実施する予定である。全学年で取り組んでいる週末課題「滴一滴」の視写の継続、7年目になる放課後学習支援「寺子屋」をさらに充実した取組にするなど、「基礎・基本」を大切にしたい指導を心がけていきたい。

また、同時に行われた学習状況調査からは、「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾や家庭教師含む）」の問いに「1時間以上」と回答した生徒の割合が、岡山県・全国の平均よりも大きく下回っており、校内での補充学習や家庭学習時間の確保が必要である。そのためには、4月に配布している「H31年度 庄中版 家庭学習の手引き～自ら学び、考え、表現しよう～」や、倉敷市が市立中学校全生徒に向けて導入している学習支援ソフト「プリントひろば」「タブレットドリル」（生徒1人ひとりに個別IDを割り振り、PCやタブレットを使って、学校でも家庭でも自主学習ができるソフト）のより積極的な活用など、現在行っている取組の継続と生徒への浸透を図ると共に、宿題のあり方などについて小学校や家庭・地域と連携して共通理解を深めながら、生徒の学力向上に努めて行く必要があると考えられる。